

TAKE FREE

vol.48

WINTER. 2015

Volut

ボラット

函館のボランティアと
コミュニケーションについて考える
クォーターリーマガジン

特
集

それぞれ
の
子育て。



T. Kawamura

特 集

それぞれの子育て。 — 4 - 16

- 馬麗（マー・リー）さん
- バゲンダ・フローレンスさん
- 林 佐和子さん
- 柴田晃宏さん
- 石橋まなみさん
- 大野誠子さん
- 山田圭介・あゆみさん



毛利悦子 大谷短期大学教授
小葉松洋子 湯の川女性クリニック 院長・医師

函館市の子育て支援情報

VOLUTSQUARE — 17 21

- ボラット・スクエア

ちょっと真面目にボランティアについて考えてみよう。／

旅（スペイン・ロバビエバ）／

ESSAY／映画／本

[世界のおふくろの味]

ぶらっと・ボラット／函館の[清く正しいオジサン] 通信／

- 外国人に訊いた函館暮らし

Alma Thrift — 22 - 23

アルマ・スイフト（カナダ・ウィニペグ）

日本はシャイな人が多いのかなと感じます。

VOLUTINFORMATION

from 函館市青少年研修センター（ふるる函館） — 27

from はこだて若者サポートステーション

- HIF NEWS — 25

message board

伝言板●メッセージ・ボード — 27 - 29

ボラット設置場所・奥付 — 30



表紙イラストレーション／カワムラテルアキ



私たちは、「食」と「物流」を通して
地域の明日を考えます。



ヤマダイ大作運輸株式会社

【一般貨物自動車運送事業 取扱事業 第二種利用運送事業（コンテナ）】
本社営業所／〒049-0111北海道北斗市七重浜1丁目8番1号
TEL.0138-48-8119 FAX.0138-83-1942
札幌営業所／〒061-3271北海道小樽市銭函5丁目50-4
TEL.0133-75-8008 FAX.0133-75-8833

株式会社 山大

【生鮮魚介類の販売、水産物の製造加工及び販売】
西結梗工場／〒041-0824 北海道函館市西結梗町548番3
TEL.0138-48-0231 FAX.0138-48-2125

株式会社 ヤマダイフーズプロセッシング

【納豆の製造・卸売り並び小売業】
小樽工場／〒047-0261北海道小樽市銭函3丁目319-1
TEL.0134-62-7007 FAX.0134-62-7227

株式会社 YGフラッグシップ

【厚生労働大臣認可 一般労働派遣事業】
本社／〒049-0111北海道北斗市七重浜1丁目8番1号
TEL.0138-48-0350 FAX.0138-49-0331

株式会社 函市作業組

【函館市水産物卸売市場構内の作業請負業】
本社／〒049-0111北海道北斗市七重浜1丁目8番1号
TEL.0138-48-0350 FAX.0138-49-0331

株式会社 魚小路

〒221-0822 神奈川県横浜市神奈川区西神奈川1-13-2
TEL.045-321-8148 FAX.045-324-4546

(有) 耶馬台国

〒049-0111北海道北斗市七重浜1丁目8番1号
店舗／旬の味 ご馳走亭
〒040-0011函館市本町11-8 TEL.0138-56-6888
旬酒者 兎月
〒040-0011函館市本町5-18 TEL.0138-51-8881

●馬麗（マー・リー）さん

●石橋まなみさん

●バゲンダ・フローレンスさん

●林佐和子さん

●大野誠子さん

特集

それぞれの 子育て。

●柴田晃宏さん

●山田圭介・あゆみさん

毛利悦子 大谷短期大学教授

小葉松洋子 湯の川女性クリニック 院長・医師

函館市の子育て支援情報



国際社会で活躍できるように。 夫婦の会話は日本語、 子どもたちとは中国語

●馬麗（マー・リー）さん

中国山東省出身で、2007年から函館在住の馬麗さん。独学で学んだ日本語を武器に、中国の貿易会社に通訳兼日本語トレーナーとして就職、その会社でご主人と知り合い結婚。今は、7歳の男の子と、2歳の女の子の母親だ。最初の頃は、なかなか仕事のチャンスにも恵まれなかったが、今は、いろいろなつながりから仕事も入ってくるようになったと馬麗さん。

仕事をしながらの子育ては、それなりのたいへんさも付きまとう。ひとつは、家族と過ごす時間が少ないこと。できるだけ、日曜日は仕事をせず、学校行事などにも参加するようにしているが、急な仕事が入ると、家族

に子どもたちを見てもらうことになる。また体力的にきつい場合もある。翻訳など集中する仕事は、子どもたちが寝てから深夜まで、ということもよくある。パン屋さんを経営するご主人は、2時から仕事を開始するので、「私の家は24時間眠らないです」と馬麗さん。

中国と日本では、学校の事情もかなり違うという。たとえば、中国の学校はどの学年も17時くらいに終わるが、日本の小学校は低学年の頃は14時頃には帰ってくる。また日本は、宿題も少ない、はっきりと成績の順番をつけないかったり、ヒントを与えて最終的には、満点にするテストの仕組みになっていると馬麗

さんは感じる。だから自分の子どもの理解度が判断しにくくて、塾に行かせたらいいいのかどうか迷う場面もあるという。

中国出身の馬麗さんと、日本のご主人の元に生まれた二人の子どもたち。「日中問題は非常にデリケートな問題であり、二つの国の血が流れる子どもたちもその現実を受け止めながら、世界のこれからを考えてゆくようになるだろう」。

今、夫婦の会話は日本語だが、子どもたちとは中国語で話す馬麗さん。国際社会でも活躍できるように、母親として子育てをし、妻として、嫁として、職業人として奮闘する馬麗さん。



イベント会場でのひとコマ。子どもたちは真剣にお気に入りの一冊を探す。

ん。「私の取り柄はいつも明るいことです」という笑顔には、これからの乗り越えてゆくパワーが感じられる。

故郷アフリカ・ウガンダから 遠く離れた北国で、 たくましく生きる5人の母

●バゲンダ・フロレンスさん

函館に来てはや12年、すっかり日本の生活に慣れたウガンダ出身のフロレンスさん。現在同郷のご主人と一緒に、下は未就学から上は高校生までの5人の子どもたちを育てている。今

ちが親のかわりに叱ったり褒めたりして子育てをするという。そうして小さい頃からいろんな人に接することで人間性が豊かになっていくという。

でこそ流暢に日本語を話すフロレンスさんだが、函館に来た当初は全く日本語が話せず、2人の幼児を抱えて苦労したという。ウガンダでは都市部の家庭のほとんどがお手伝いさんを雇い、家事や子ども世話をしてくれる。フロレンスさんも働きながらお手伝いさんに子どもを預けキャリアアップを目指していた。ウガンダでは母親だけが子育てをするのではなく家族やお手伝いさん、近所の人た

日本の子育ては主に母親の役目であるが、いざというときは実家に預けたり保育園に預けたりしている家庭が多い。日本では「それぞれの家庭の方針があるから」といったような遠慮もあり、どこか他人行儀な子育てになっているのは否めない。日本にもウガンダのように地域の人と一緒に子育てをする時代もあったが、時代の変化とともに薄れてきた。そんな日本での子育てにも慣れ、持ち前の明るさと忍耐力で乗り越えてきたフロレンスさん

ん。目下の悩みは子どもたちの将来のこと。子どもたちのほとんどが日本で生まれ育ち、日本での生活が長い中、自分達のルーツはウガンダであり、ウガンダ人としてのアイデンティティを持って生きてほしいという両親の願いとは別に、子ども達はウガンダという国に対してどのような気持ちを抱いているのかわからないという。いざというときに、自分の将来を決めるのは子どもたちであり、自分で道を切り開いていかなければならない。子ども達が成人し自分の意志をしっかり持つようになるまでは、親としてしっかりと見守っていききたいと思っている。

イベント会場でのひとコマ。子どもたちは真剣にお気に入りの一冊を探す。



「できるだけ子どもとの時間を大切にしたい」と語る彼女の シングルマザーという選択

●林佐和子さん

「僕が、ママを守ってあげるって言われます」。間もなく3歳

になる男の子を持つ林さんは、2年前に離婚。現在は実家で暮らし、脚の自由な祖母、母方の叔父、父と母、そしてご自身と子どもの6人家族。近所には赤ちゃんが生まれたばかりの弟夫婦が住んでいて遊びに来ることも多いため、他の家庭に比べ自宅に人がいる時間帯が多い。中でもお

イベント会場でのひとコマ。子どもたちは真剣にお気に入りの一冊を探す。

母さんは保育士の有資格者で、心強い味方だ。家事もほとんどお母さんが行っているため、自分で家事育児をし、北斗市から函館までパートに通っていた結婚当時のことを思うと、実家は働く上で非常に快適だった。とはいっても、お母さんもボランティアに行くなど出かける日もある。子どもは長時間保育で保育園に通っている。同じように函館に住むシングルマザーの友人の話によると、母一人子一人の生活のため、やはり子どもを預ける場所に困っている。ちょっとしたあそびを保育所にお願いされ児童相談所が訪ねて来たり、遠方に住む父方に子どもを連れていかれてしまった友人もいる。そんな話を聞くと、やはりシングルマザーのたいへんさを痛感する。「うちは母と2人で分担出来ているので恵まれていると思います」とは言いながらも、やはり母に多くの部分を頼っているため、申し訳ないと思

思うこともある。結婚していた頃は月に10日ほどの事務パートで働いていた林さん。離婚後同会業にも就き、現在は2つの仕事を掛け持ちしている。当然、丸1日オフの日というのは稀だ。子どもと一緒にいられる時間が少ない分、寝かしつける時は林さんも出来るだけいっしょに寝るようにしている。休日自分の用事で出かける時はいっしょに連れて行くか、それが無理な場合は出かけること自体を取り止めることも多い。そうやって精いっぱい2人の時間を作っている。車が大好きな子どもとは生後2ヶ月ぐらいからドライブにもよく出かけた。今のブームは「ご当地ピズ」の収集だそう。

林さんが以前骨折した手術痕を見て、「大人になったら僕がママを治してあげる!」と話す息子さん。触れ合える時間は少なくとも、ママ思いの優しい子どもに成長してくれている。



家事と育児は夫が担当。 話し合いを重ねてだした 2人の結論

●柴田晃宏さん

1歳9ヶ月の娘さんを持つ柴田夫妻。パパの晃宏さんは現在パートタイムで働く主夫パパ。娘さんはイヤイヤ期真っ只中だが、怒るところと褒めるところのメリハリをつけ、本人のやる気を削がない育児をしようと夫婦で話し合いながら子育てをしている。

転勤を伴う公務員の奥さんとは結婚前からライフプランを相談し続け、奥さんが転勤の場合はそれを優先し、柴田さんはその転勤先で職を探す、別居はしないということを決めた。子どもができ、奥さんは1年ほど産休と育休期間を申請、その間に家事と仕事それぞれの役割をどちらが担うかを最終的に見極

め、話し合った結果、奥さんが仕事、柴田さんが主に家事を担当することに決めた。正社員での共働きも考えたことがあるが、両方の実家が離れているため難しいとの判断にいたった。函館は当日の連絡で子どもを預けられる場所がきわめて少なく、急な事態に対応できないから。娘さんは夜中に突然熱を出す、嘔吐する、ということも多いため、前日までに内科受診が必要な形式の病児保育は利用できない。奥さんが職場復帰した直後は、夜中に熱を出した娘さんを看病し、そのまま仕事に行ったり、1週間2人で交互に仕事を休んだりということもあった。また、税金の問題もある。配偶

者特別控除となる130万円を超えてしまうと、社会保険料や年金、加えて収入が増えた分保育園の料金も上乘せされるため、子どもを預けるために働いているのか、働くために預けているのかわからないような状況となってしまう。社会の仕組みが核家族化には適応しておらず、共働きしやすいようには出来ていないための判断だ。

主夫パパへの世間の目はやはりまだまだ冷たく、肩身が狭い思いをすることもある。周りはバリバリ働いているのに自分ばかりパートで責任のある仕事に就くことができないため、男性としてのプライドを傷つけられることも。それで

も娘さんのことを第一に考え、仕事から帰った奥さんがちょっとした娘さんと触れ合える時間を持てるよう、柴田さんは全力のサポートを心がけている。

イベント会場でのひとコマ。子どもたちは真剣にお気に入りの一冊を探す。



情報の少なさも ママ友のネットワークが 強い味方に

●石橋まなみさん

現在七飯町在住、1歳7か月の男の子を持つ石橋さんは、息

子さんが生後3〜4週頃に里帰り先の札幌から移り住んだ。転勤族である旦那さんとは道央在住時に結婚。3月に「転勤があるかも」と知らされ、大きなお腹で引越しの準備をし、内覧をする時間もなくあったためその時に住んでいた家と同じハウスメーカーに同じ間取りの部屋を探してもら

イベント会場でのひとコマ。子どもたちは真剣にお気に入りの一冊を探す。

イベント会場でのひとコマ。子どもたちは真剣にお気に入りの一冊を探す。

い決めたそうだ。

初めの頃は夫婦で車1台の生活をしていたため、普段の移動は全て公共交通で徒歩。週1回ほど通う2、3km先の小児科には、はじめはベビーカーを押して通っていたが、坂道のため抱っこひもでの通院を決意。車を購入するまで45分の道のりを徒歩で通っていた。函館市内に出かける際は、まずJRで函館駅まで移動。駅の階段は息子さんの他にベビーカーと荷物も抱えての上り下りにひと苦勞。それから市電や市バスでの移動になり、片道1時間ほどの移動になることも多く、息子さんが授乳やおむつ替えを求めて泣くとそのたびに場所を探して右往左往したそうだ。

函館で子育てに役立つ情報は、月刊のフリーペーパーなどで探すのだが、毎月収集しなればたくさんさんの情報は得られない。「2冊にまとまった本があると、転勤族のママにもすぐ情

報が手に入られて便利だと思ふんですよ。」と石橋さん。そんな中、やはり一番役立つ情報はママ友同士のクチコミだ。子連れで行つていい飲食店などの情報も、インターネットだけでは集まりきらず、やはりママ友に聞くことが多い。現在ママのためのイベントや講座などを行う、ハピネットmamaというサークルのメンバーとして活動する石橋さん。インターネットで見つけた、赤ちゃんを抱っこしたままエアロビクスのように踊る『ベビータンクス講座』に参加したことがきっかけで、たくさんの友人ができ、多くの情報を得ている。これからたくさんの人と関わりたいと語る石橋さん。ママ友の輪は広がるばかりだ。

特集

それぞれの
子育て。

仕事と育児、

両立できるのは 両親の支えがあつてこそ

●大野誠子さん

今年の8月に第一子となる男の子を出産した大野誠子さん。北斗市在住の3カ月の新米ママだ。現在は育児休暇中で、親子3人函館市の誠子さんの実家に居候中。旦那さんの仕事が不規則で出張も多いため、両親のサポートを受けられることが本当にありがたい。赤ちゃんが昼も夜もぐずって寝なかったり、嘔吐した時なども、精神的にも体力的にも支えてもらっているのだという。子どもが1歳になる頃に復職予定だが、それまでに実家の近くに引っ越すことを検討している。子どもが急に体調を崩した時など、実家の近くの保育園に預けていれば、替わりに迎えを頼めたり何かと融通が

利く。性格上、「自分は専業主婦には向かない」と、結婚の際も妊娠の際も退職という選択は考えなかったのだという。また少子高齢化がすすむ中、将来の年金に全て頼るのは怖いし、子どもの養育費なども準備しておきたい。それに一度職を失って、再度正社員として雇用される保証はどこにもない。時間や休日など、会社が配慮してくれるといっても、周りの同僚に気兼ねがない訳ではないので、両親に頼れるところは頼ろうと思っている。ただ、こんな風にできるのは、近くに両親がいるからこそ。「家事も育児も仕事も、ひとりでこなしているお母さんたちは、本当によくやっついていらっしや

ると思います。」と感心する。

最近やっと赤ちゃんが一定時間寝てくれるようになり、保育園についても調べはじめた。といっても大野さんの場合、実家の近くというのが最優先。それでも保育園か幼稚園か、子どもの教育方針や雰囲気など、少ない選択肢の中でも一番家族に合った施設を選びたい。

函館は子育てしやすいと思うかと大野さんに尋ねると、「正直まだわかりません。でも、待機児童の問題もあまり聞かないし、自分が生まれ育った街で両親に支えてもらい、働きながら子育てできる今の環境は、私にとっては最高だと思います。」と語る。

「子育てはお互い様」 友人家族やご近所と助け合う 自然に寄り添った子育て

●山田圭介・あゆみさん

大沼側から、城岱牧場に向かうと右側に小さな看板があり、

そこを右折し橋を渡ると山田農場チーズ工房がある。今でこそ、

イベント会場でのひとコマ。子どもたちは真剣にお気に入りの一冊を探す。

落ち着いて暮らせるようになったが、山田家の子育ては、開拓の歴史でもある。2005年3月、まだ雪も残る笹藪だらけの急斜面に農場を作るための作業が始まった。生後3ヶ月の子どもを背負っての畜舎や家づくり、家畜

の世話だつてある。「ゆっくり子育てのことなど考えられなかった」と当時を振り返るあゆみさん。現在、9歳、6歳、4歳と3人の男の子がいるが、子育てのことを考えられるようになったのは、2番目の子から。「安全な食べ物」と、『テレビ・ゲームは持たない』ことにはこだわるが、「手づくりじゃないとダメ」とか「プラスチックのおもちゃはダメ」とか、難しい決め事はしない。子どもから何でも取り上げることはせず、自由にのびのびと暮らせるのがいいのだと思う。

家から学校までは、片道3kmの山道だ。夏休みから11月くらいまでは、ヒクマが出るかもしれないから、七飯町がタクシーを用意してくれるが、それ以外は、基本的に歩いて通う。そういえば、昔は道草ついているのがあったなと思わせる昔ながらの風景がまだここにはある。

今、ヤギ20頭、羊10頭を飼いながらチーズをつくる。春に子どもを産んで、約9か月はミルクを絞る。朝早くからチーズを仕込み、夕方仕事に汗を流す。なかなか、子どもと遊ぶ時間はないが、一緒に農作業をする時は、子どもも喜んでついでくる。

山田家には、おこずかい制はないから、労働すれば対価を払う。原発や環境の話だって、子どもが話したいといえば真剣に向き合う。そこは、大人としてしっかり対応するのが山田家流だ。

愛知出身の圭介さんに、東京出身のあゆみさん。実家が離れているからたいへんな時もあるが、そんな時こそ「子育てはお互い様」。友人家族やご近所と助け合い、力を合わせて乗り越える。仕事柄、お互いの実家にもなかなか帰れないが、「狭い家こそ、コミュニケーションの原点」という山田家には、何か忘れかけていた「子育てのカタチ」を感じさせられる。

特集

それぞれの
子育て。

イベント会場でのひとコマ。子どもたちは真剣にお気に入りの一冊を探す。



子育てに求められる新しい地域づくり

毛利悦子

大谷短期大学教授

「函館市立幼稚園を皮切りに、市内の幼稚園の園長を務めてきた毛利さん。2008年からは、大谷短期大学で教鞭を取っている。長い現場の第一線にいた彼女は「今も、子どもたちは『育つ力』を持っているし、お母さんたちだって、しっかりと『育てる力』を持っている。それは昔から変わってはいないんです」と、柔らかな口調だがきっぱりと語る。

それなのになぜこうも子育てが難しい時代になったのか。それには、はっきりとした理由があるという。ひとつは、『家族のカタチ』が以前とは大きく変わってしまったこと。核家族化



が進み、家族を構成する人の数が少なくなった。たとえば、毛利さんが現在教えている学生60名中、三世代で同居しているのはほんの数名、兄弟姉妹だって減っている。それに加えて、地域に失われつつあるコミュニティ。回覧版も回らないし、近所付き合いもなくなってきたのが現状だ。この傾向は、大都市ほど顕著だが、道南地域でも同じことだ。どこへ行くにも家族で行動、買い物やレジャー施設に行く「カプセル家族」が多くなっている。いつも隣には親がいるわけだから、子どもたちは安心だし、外にひとりで行くことなどほとんどない。それは子どもにとって心地のいいことかもしれないが、社会性の欠如にもつながりかねない。理想は地域がみんな子どもを見守り、助け合うという仕組みが確立されていることなのだが、それがなくなりつつある現

在、幼稚園、保育園の存在は大きい。もともとも成長が目に見える0歳から6歳。「立てる、歩ける、話しはじめる、そして友だちができてゆく。子どもの成長にはとても重要な時期なんです」と毛利さん。幼稚園、保育園がひとつの軸となり、それを親と子ども、そして地域がいっしょになって、しっかりとしたコミュニティを構築していくことが求められているという。

うになったということもある。今でこそ子育てサロンがあるが、当時、毛利さんのその試みは先進的だった。

子育てをしている母親たちは、ちゃんと育てて当たり前と思われていて、誰かに褒められることもない。自分の思い通りにはいかないのが子育てだし、子どもは千差万別で、マニュアル通りにいくわけがない。「私はそんなお母さんたちを、良くやってるね。頑張ってるね、って抱きしめるんですよ」と毛利さん。その思いやりが、子育てに勇気を与えるという。

あるいはこんなこともある。1日中、子どもといっしょだと、イライラすることもあれば、休みなくなることもある。そんな時に、託児のある集まりに行くと、背中から子どもを下して、お茶を飲んだり、悩みを相談し合える時間を持つこと。そんなちょっとしたことが至福の時に

思えるし、明日への活力にもつながる。

核家族化がますます進むであろう今の時代に、もう一度見直したいコミュニティの存在がある。そして誰もがいっしょに関われる空間を幼稚園、保育園を中心に創っていきたいと語る毛利さん。今もなお、子どもの力や、親の力は健在だという中で、新しい地域づくり、助け合いのあり方が今求められている。

PROFILE

イベント会場でのひとコマ。子どもたちは真剣にイベント会場でのひとコマ。子どもたちは真剣にお気に入りの一冊を探す。イベント会場でのひとコマ。子ども

特集

それぞれの
子育て。

子育てには周囲の理解と協力が不可欠。

小葉松洋子

湯の川女性クリニック 院長・医師

小葉松さんが、いくつかの病院勤務を経て湯の川女性クリニックを開業したのは2005年のこと。「頼まれたことは断らない」という小葉松さんは、現在函館市の教育委員の3期目を務め、さまざまな講演活動もこなすという多忙な日々だ。湯の川女性クリニックは入院施設を持っていないが、妊婦検診を通して、生活習慣の改善を目的に女性が自分の身体の理解を深め自己管理することを奨励している。「予防に勝る治療なし」それがクリニックの理念だ。

「少子高齢化時代を迎え、核家族化が進む中で、やはり子育



ての難しい時代に来ている」と小葉松さん。三世代同居の時代は、自分の親に預けて、仕事をすることも可能だった。そもそも子どもたちも多いわけだから、上の子が下の子の面倒を見るということも自然なことだった。近所付き合いもあるから、用事のある時には助け合うという人間関係もあった。地域との関わりも薄れつつある今、なかなか安心して子育てできない状況があるのが現実だ。

雇用情勢も依然として厳しい中、首都圏や大都市などでは、狭い住宅環境や、待機保育の問題が少子化につながっている。また、非正規労働の増加などによって、「これから、どうしてゆけばいいのか」という漠然とした将来への不安もあり、考えれば考えるほど出産に踏み切れないという若い世代の声——。社会制度がいろいろと整えられてきてはいいても、まだまだ問題

の解決にはほど遠い。地域があたたかくサポートできる土壌があるかどうかも重要だ。

「たとえば、世界を見るとアジアやアフリカなどでは『子どもができる』と賑やかになる」と出産を歓迎し、とりあえずみんなで祝おうというおらかさがあのように思えます。これは「開発途上国」と呼ばれる地域ほどその傾向が強いように感じます。昔の日本も同じように子沢山だった時代があったんですね。

経済発展に伴い、女性の社会進出も進んだ。さまざまな情報が氾濫し多様化するライフスタイルの中で、女性たちが「社会人として一定の役割を担ってから」と考えるようになり、それが出産の高齢化につながっている。また、「産めない」ではなく「産まない」ことを選択する女性も増えた。

また一方で高齢化の時代を迎

えている今、介護の問題も大きい。仕事と子育ての両立どころか、それに親の介護も、というケースだってあるだろう。

安心して子育てができる社会はどうあるべきなのだろうか。これは理想だが、企業の大小に関わらず、職場に妊娠報告をした時に、素直に「おめでとう」と喜び合える社会になること。人事担当者は、配置換えや人員の穴埋めをどうするか、そちらに頭がいつってしまうのが現実だ。

もっとも経営が成り立たなければ、産休や育休後の道も厳しいわけだから、雇用側の経営努力と共に、自分が復帰後の戦力として期待される人材であることは望ましいのだろう。ここでも、お互いさまの気持ちが必要になる。

「子宝に恵まれるということ、を、本人たちだけではなく、周囲がもっと理解し、祝福できること。また「以前自分も周囲のお世話になった」とか「いつか

自分も子育てをする立場になるかも知れない」という『お互い様』の気持ちを持つことがたいせつです。そんなあたりまえの思いやりをていねいに積み重ねていくことが、少子高齢化問題に向き合う上では欠かせない。個人、その周囲の地域コミュニティ、そして社会全体がひとつにならなければ、解決の糸口が見つからない。

PROFILE

湯の川女性クリニック院長・医師。弘前大学医学部 卒業。北海道大学 医学部付属病院、北海道対がん協会、国立函館病院、市立函館病院などを経て、現在に至る。函館市教育委員。

特集

それぞれの
子育て。

くらしや仕事での不安や困りごと、一緒に考え解決に向けてサポートします

●生活就労サポートセンターひやま

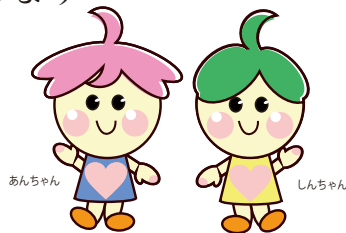
「生活就労サポートセンターひやま」は、国の生活困窮者自立支援法に基づき、今年4月から、全国の自治体で「生活困窮者自立支援制度」が施行されたと同時にスタートしました。檜山管内では北海道国際交流センターが檜山振興局から委託を受け、江差町に事業所を開設し、相談窓口の運営を行っています。事務所は江差町内の中心地にあり、現在は3名のスタッフで業務にあたっています。

「これからの生活をどうしよう」「体調も良くない」「家族の介護や子育てが心配」「将来に希望が持てない」「なかなか働く場所が見つからない」「何となく不安・・・」そんな様々な悩みを聞く相談窓口になっています。現在では開設後半年を経過し、この事務所の徐々に周知されてきており、利用される方も、少しずつ増えてきている中で、私たちが丁寧に対応し、きめ細かい情報提供や相談業務にあたっています。

パブル崩壊、リーマンショックなど、長期的な景気低迷により、日本の看板でもあった終身雇用制は崩れ、

雇用構造や家族、地域コミュニティの在り方が、変質してしまいました。厚生労働省の調査では、非正規雇用の割合が増加し、平成26年現在では37.4%（うち男性21.8%・女性56.7%）を占めるようになったといえます。また、世帯構造についても、単独世帯や夫婦のみの世帯が増えていて、過疎化の進む地方と、核家族化が進む都市部で、共に地域コミュニティの希薄化が進んでいます。

そういう意味では、生活困窮に陥る危険性は誰もが隣り合わせであり、「地域コミュニティ」の再生、つまり悩みを相談し、助け合い、思いやる気持ちが大切だと考えます。地域コミュニティが担っていたものを受け継ぐような相談窓口でありたい、そして少し固い表現でいうと「重

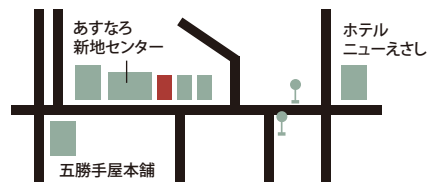


層的なセーフティネットの構築」こそが私たちの役割といえるでしょう。

今、私たちは「どんな悩みや不安でも気軽に相談出来る場所」とありたいと考えています。どんな人でも、経済的をはじめ、社会からの差別や偏見、地域での孤立といった悩みを持つことがあります。第三者から見ると問題にならないようなことでも本人にとっては深刻な事であり、様々な不安が、それらが生活困窮に繋がる場合も少なくは有りません。そうなる前に誰かに相談して、一緒に解決策を考えるということは、今の状態から一歩でも良くなると私たちは考えます。そのための相談場所として、是非多くの方に「生活就労サポートセンターひやま」を利用して頂きたいと思えます。是非、お気軽にお越しください。

「生活就労サポートセンターひやま」

相談受付 9:00-17:00(土日祝・年末年始休み)
秘密厳守・相談無料
〒043-0043 檜山郡江差町本町101-1
TEL:0139-54-6300 FAX:0139-54-6301
Mail:hiyama@hif.or.jp



函館市の子育て支援情報

子育て支援隊、北海道初の「ホームスタート」2014年10月スタート。

「ホームスタート」とは、イギリスから始まった訪問型支援システムです。未就学児が1人でもいる家庭に、研修を受けたボランティアが訪問する「家庭訪問型子育て支援」です。2名のコーディネーターがニーズ調査をし、要望に合うビジター（現在登録13名）を派遣するというもの。週に一度、2時間程度、計4回の支援を行います。

函館子育て支援隊・ホームスタートみはら 【社会福祉法人育星会函館美原保育園】
函館市美原1丁目29番21号
TEL:0138-62-2020 FAX:0138-62-2012 E-mail: hs-kosodate@email.plala.or.jp
http://www.ans.co.jp/u/ikuseien/shientai.html

「子育てサロン」「つどいの広場」が13ヶ所、子育てのよりどころに。

親子で遊び、子育てに関する情報提供や育児の相談ができるほか、情報交換の中で、友だちの輪が広がります。保育園に併設されており、利用は無料です。

中央子育てサロン	新川町1番5号	23-5617	大谷港子育てサロン	港町1丁目25番1号	83-5377
亀田港子育てサロン	亀田港町52番14号	45-1380	花園子育てサロン	花園町32番1号	51-7321
美原子育てサロン	美原1丁目29番21号	62-2020	南かやべ子育てサロン	川汲町1481番地2	25-5173
石川子育てサロン	石川町39番地8	47-6586	つつじ子育てサロン	日ノ浜町172番地8	85-3555
鍛冶さくら子育てサロン	鍛冶1丁目11番21号	55-6647	函館短期大学つどいの広場	高丘町52-1	090-6697-5078
深堀子育てサロン	深堀町27番2号	51-0077	大森浜団地つどいの広場	東川町18-1	22-3155
赤川子育てサロン	赤川町161番2号	47-6767			

「児童館」は子どもの遊び発信基地。

児童館は乳幼児から18歳までの児童が対象で、市内に27ヶ所あります。児童館によっては、午前中の利用の少ない時間に、地域ぐるみで子育てをする遊びなども用意しています。

児童センター	若松町33-6	23-7428	日吉が丘児童館	日吉町2丁目34-5	56-0946
西部児童館	入舟町6-17	23-1765	深堀児童館	深堀町14-6	52-4411
谷地頭児童館	谷地頭町9-5	23-4475	湯浜児童館	湯浜町14-3	51-5472
東川児童館	東川町11-12	23-1497	湯川児童館	湯川町2丁目13-16	57-4578
高盛児童館	高盛町17-10	51-6444	旭岡児童館	西旭岡町2丁目51-1	50-5105
人見児童館	人見町15-5	56-0396	古川母と子の家	函館市古川町7-1	58-2601
赤川児童館	赤川1丁目30-35	46-1717	中島児童館	中島町30-8	56-0475
鍛冶児童館	鍛冶2丁目20-5	51-1044	宮前児童館	宮前町25-15	41-1609
山の手児童館	山の手3丁目4-7	51-4480	大川児童館	大川町9-8	41-3618
桔梗福祉交流センター	桔梗4丁目1-18	47-7099	五稜児童館	白鳥町14-29	42-7095
亀田港児童館	亀田港町42-16	45-0216	本町児童館	本町36-15	54-5217
美原児童館	美原2丁目21-7	46-1840	富岡児童館	富岡町1丁目49-27	42-4013
神山児童館	神山町241-70	56-1116	昭和児童館	昭和2丁目37-2	45-9030
上湯川児童館	上湯川町8-1	57-2332			

「乳児家庭全戸訪問事業」(こんにちは赤ちゃん事業)

生後4か月までの赤ちゃんのいる全世帯を保健師等が訪問する、というものです。

病児保育室「りんごっこ」

お子さんが病気にかかっている、あるいは治りかけでまだ登園登校させることができない場合、あんざいクリニック病児保育室「りんごっこ」において、保護者に代わって保育士と看護師が、お子さんが回復に向かうよう手助けをしながら保育します。事前登録、利用日前日までに「あんざいクリニック」の受診と予約が必要。料金2000円/日(食事含まず、弁当、おやつなど持参) TEL76-3210

函館市ファミリーサポートセンター

地域において、育児の援助を受けたい人(依頼会員)と、育児の援助を行いたい人(提供会員)が会員となり育児について助け合う会員組織です。依頼会員から提供会員への支払 基本200円~/30分 TEL 23-3920

※詳しくは、函館市子ども未来部次世代育成課発行の「すくすく手帳」をご覧ください。

子ども未来部 次世代育成課
TEL:0138-32-1517 FAX:0138-32-1506 E-Mail:kosodate-net@city.hakodate.hokkaido.jp

※詳しくはGCサポート函館のホームページをご覧ください。 <http://www.hif.or.jp/global/>

●外国人に訊いた道南暮らし

日本はシャイな人が多いのかなと感じます。

アルマ・スリフト

●カナダ・ウィニペグ

カナダ中央部、肥沃な農地が広がる穀倉地帯マニトマ州、その州都ウィニペグ市はアメリカ合衆国との国境から約100kmの場所にある。1月の平均気温はマイナス15℃を下回り、マイナス40℃まで下がることも珍しくない。逆に夏は蒸し暑く30℃を超える日が多く、最高気温40.6℃を記録したこともあるというのだから極端な大陸性気候だ。

この街の出身で、現在八雲町でALT（外国語指導助手）として町内の小中学校で英語を指導しているのがアルマ・スリフトさんだ。フランス系の移民が

多いという背景からバイリンガルが多いことで知られているのはケベック州だが、ウィニペグ市周辺もフランス語を話す人が多く、彼女も2カ国語を操る。学生時代はサッカーをしていたというスポーツ好きの少女だった。また、小さな頃から始めたバイオリンは「将来はプロになる予定です」というほどの腕前というからその多才さには驚かされる。

アルマさんが来日したのは2年前の夏。オタワの音楽大学を卒業後、ALTとして1年間韓国で過ごし一時帰国、その次に

選んだ国が日本だった。

「韓国人は、怖いぐらいはつきりと自分の意見を主張するんですが、それに比べると日本はシャイな人が多いのかなと感じます」来日してまず困ったことは、コミュニケーションをとれる相手を捜すことだった。日本語をまるで話すことができなかったアルマさんにとり、英語で相談できる人間を見つけることは必須だった。それでも持ち前の明るさと積極性ですぐに周囲にとけ込んだ。日本に来てから始めた剣道は現在初段。さまざまな飲み会の誘いも受ける。バイオリンの腕前を披露する機会も多い。たくさんさんの友人もでき、週末は自ら運転して（来日して中古車を購入）函館市内へもよく出かけるという。

そんな日本での生活をエンジョイする彼女に「日本の生活でとまどうことはないですか？」とたずねると、少し考えた後「ゴ

ミ…かな」とのこと。ゴミの分

別の種類が多すぎて何をどう分けていいのかもしれない。もちろんカナダでも分別はするが、これほど細かな決まりことはなかった。驚いたそのうだ。そしてもうひとつ気づいたことは「教室の黒板」。韓国の学校はほとんどが「スマートボード」と呼ばれる電子ボードを用いている。韓国ほどではないにしろカナダでもかなり普及している。「ハイテク」のイメージが強かった日本でこの学校もまだ黒板を使用しているのが意外だったという。食事に関する

苦労はなかった。日本食は大好きで『納豆』以外はなんでも食べる。料理もこなし、アパートでは自炊をしている。特にお菓子づくりが得意だという。

「日本に来てよかったって心から思います。みなさん優しくしてくださるので毎日楽しいですよ。」と語るアルマさん。取材中、常に人なつこい笑顔で周囲に気を配る姿にこちらまで楽しい気分がさされた。

Q&A

●アルマさんへの3つの質問

Q 今夢中になっていることは？
A ロッククライミングにはまっていて、北海道内の山に時々出かけます。

Q 最近観た映画は？
A 『ジュラシックワールド』を映画館で観ました。

Q 将来の夢は？
A 近い将来、プロのバイオリニストになると思うんですが、まだちょっとだけ迷っているんです。音楽演奏の生活になる前にいろいろな経験をしたみたかったのも、日本に来た理由のひとつです。とにかくじっくり考えて結論をだすつもりです。

PROFILE

●カナダ・ウィニペグ市出身。オタワ大学音楽学部卒。2013年八雲町のALT（外国語指導助手）として来日。特技のバイオリンの他、サッカーやロッククライミングなどスポーツ好きな一面も。

Alma Thrift

アルマ・スリフト





ちよつと真面目に
ボランティアについて
考えてみよう。

・第四話

「先駆性」。

庄司 証 / 函館圏フリースクールすまいる代表

「ボランティア4原則」というものがある。①主体性、②非営利性、③公共性、④先駆性の4つだが、誰でもイメージしやすいのは非営利性で、主体性やそれとあわせる形で公共性も語られやすい。

では、「先駆性」はどうだろう。あまり意識されることがないが、実は最も重要なポイントであるように思う。

例えば、公園に落ちているゴミを見て残念に思い、自分が拾おうと決めて自由に活動が始める。このような「きれいな公園にしたい」という想いがあって初めてボランティアは生まれる。「先駆性」とは、

制度など行政や企業、団体の対応を待つより先の、市民社会を築く一人としての素朴で自然な想いであり、力だ。

それは、やや大げさかもしれないが「未来への希望」ではないか、と思う。ボランティアの語源の有力な説の一つに

「混乱や生活不安の中で、自らの手で自分たちの村や町を守るために組織した自警団に志願する人々」というものがある。それは、まず町の未来を守らなければ、という想いから生まれた行動だったに違いない。

また、阪神・淡路大震災でのボランティア活動に参加さ

れた方は、その当時の悲惨な状況を知り、行かずにはいられなかったのではないだろうか。その後「ボランティア元年」と呼ばれるようになり、法律が整備され、ボランティアが日常的な活動になると誰が想像しただろうか。想いが行動になって社会は動くのだ。

「世界のボランティアの父」といわれるアレック・ディクソンは「ボランティアとは、自らの自由意思をもって、社会に参加し、社会をつくり変

えることのできる、すべての人に与えられた基本的権利である」という言葉を残している。まさに社会を作りかえる先駆的役割がボランティアには求められている。

自分の想いと行動が社会を変える。誰でも、大切な人たちのことを想い、行動することが未来を変える一歩になる。それがほんの小さなことであっても、そこにはきっと素敵なボランティアがある。



Alec Dickson
(1914-1994)

アレック・ディクソン。
イギリス人ジャーナリスト。

1950年代、世界で初めて、ボランティア活動の育成と支援の専門推進機関「Community Service Volunteers」、『Volunteer Service Overseas』を英国に創立。国や地域を越えてボランティア学習の普及に大きな功績を残し、『ボランティアの父』として親しまれた。

著書「世界はいまボランティア学習の時代」
(JIVA 出版部 1995)

VOLUTSQUARE



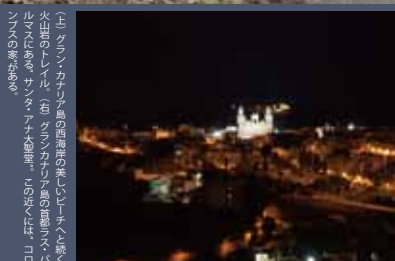
行ってみなけりや
わからない
世界のあんなとこ、
こんなとこ。



留 海道大学大学院水産化学研究院でエビ・カニのプランクトン期について研究中の博士研究員ホセ・ランディラさんが生まれたのはスペイン領カナリア諸島、グラン・カナリア島。カナリア諸島ときいてもその正確な場所が思い浮かぶ方は少ないかもしれない。スペインの南1,100 km、アフリカ大陸モロッコの西に約100kmの大西洋に浮かぶ7つの火山島からなる自治州だ。もともとは北アフリカ系の原住民が住む土地であったが、アラブ人、ノルマン人、ポルトガル人による侵略の末、15世紀末にカスティージャ王国(スベ

イン)によって征服された。コロンブによるアメリカ大陸発見以降は、ヨーロッパとアメリカ大陸を横断する際の寄港地として栄えた。その後、経済の悪化や土地の貧しさのため、多くの住民がアメリカやキューバなどに渡った。現在は美しい自然と、貿易風の影響による年間を通した温和な気候のため、観光地や保養地として人気が高まり、かつて中南米に移住した人たちの二世、三世がここにに戻り暮らしている例も少なくない。食べ物や、着る物もモロッコと中南米の影響を受けた独自のスタイル。またホセさんいわく、「古くからの開港都市なので、明るくてオープンな人が多く、同じスペイン人でも、本土の人々とは違った個性を持っている」のだとか。

見どころは、ゴシック様式の大聖堂や地中海を思わせるような街並み、美しい砂浜、切り立った断崖、広大な砂丘、600以上とも云われる希少な固有の動植物など数えきれない。また時期を選べば、カーニバルやウインドサーフィンの世界大会などを見ることもできる。最後にホセさんに7つある島のうち、一番のおすすめを伺ったところ「全部です。が、やっぱり故郷のグラン・カナリアでしょうか。でもひとつの島は車で1日で周れるので、それぞれの島の違いを楽しんで欲しいです。」とのこと。



上: グラン・カナリア島の海岸沿い。美しいビーチと、熱く、火山性の土壌。右: グラン・カナリア島の町並み。パルク・デ・サン・ペドロ・デ・ラ・クルス。この近くには、モロッコ人の家がある。

photographed by Yeray Santana

自然に生きる・ネパール

ボラット・リレーエッセイ／[書を捨てよ、旅に出よう]

4回目のネパールへの旅。山の中にある家の外に出て、ふと夜空を見上げる。濟んだ空に広がる数えきれないくらいの無数の星たち。雲の合間に流れ星が見えた。宇宙の中の「地球」。そしてその上にいる「自分」を感じる。こうしているうちも地球はゆっくりと回り、その大地の上に人々は生きている。そうやって何万年の間、人間は地球と向き合い暮らしてきたのだ、と想いをさせる。宇宙や地球から見たら、ほんの一瞬の時。自分と地球（自然）のつながりを確認できるそんな旅のひと時が大好きだ。

興味のある国際協力NGOの世界に飛び込むか、または周りのみんなと同じように就職活動を始めようのか。90年代半ば、なんの経験もない若造がいきなり海外のNGOで食べていくなんてまだまだ難しいと思っていた。そんなある日、バングラデシュで大洪水が発生したというニュースがいきなり目に飛び込んできた。ネパールやインドで森が伐採されていることが原因だと

いう。「木を植えるにいかなくちゃ」なぜそう思ったかはわからない。ただ心がそう感じた。すぐに旅の手配を整え植林ボランティアに参加するため、行ったこともない国ネパールへ旅立った。

一部始終を見ている時、人生で初めて人が燃える煙や臭いを感じた。数時間後、遺体は骨と灰になり、自分の吸っていた煙草の灰と変わらないことに気づいた時、「あ、人（自分）って自然なんじゃない」「自分がやりたいこと、進みたい道があったら、自分の心に素直に生きたらいいじゃん」という気持ちがぐつぐつ湧いてきた。人はいつか亡くなり、土に還っていく。なんだか肩の荷がすっきりした気がした。決められた社会のルールを勝手にしよこんでいた自分がいて、それに抗おうと悩んでいた自分がいて。それまでは社会に対する反抗心から、肩肘はって無理に格好つけていたけれど、その時「自然に生きたらいいんだ。」と心から感じた。

あの時、思いきってネパールへの旅に出たから、今の自分がある。とつくづく感じる。ありがとう！ネパール。さあ、また旅に出よう。



シネマで
コーヒーブレイク



① 米田哲平／函館港イルミネーション映画祭実行委員会

「まほろ駅前狂騒曲」(2014年)

子育ての映画といえば思いっくの、ダスティン・ Hoffman 主演の「クレイマー、クレイマー」や、3人の若い独身の男たちが、赤ちゃんと預かり育児をすること、「父性」に目覚めるフランス映画「赤ちゃんに乾杯！」が思い浮かびます。今、少子化に直面する日本において過去のどの時代よりも社会的に「父性」が求められているのではないのでしょうか。

回の依頼は、行天の元妻から仕事で海外に行かなくてはならないので娘の「はる」を預かってほしいという。はるは行天の娘であり、多田は困惑する。そして、面倒な依頼はこれだけではなかった。2人のバツイチ男は育児に悪戦苦闘しながらも、次第にはるとの絆を深めていく。2人の夫婦つづり（？）とはるちゃんの可愛らしさ、そして身勝手な親から卒業する行天の姿を見守る大人のファンタジーです。相変わらずのゆるさと、笑えて泣けて、温かいという定番の「ま



ほろ」世界を充分に堪能できる愛おしい作品です。この作品は、いわゆるバディムービーに分類される作品で、過去の名作に萩原健一と水谷豊の「傷だらけの天使」があります。

V O L U T S Q U A R E

MOTHER'S DISH OF THE WORLD

●世界のおふくろの味 [ロパビエハ (スペイン)]

文・写真／さとうあやこ (cafe まるせん)

「常春の島々」と呼ばれる大西洋に浮かぶ7つの島々からなるスペイン領カナリア諸島。平均気温21℃と一年を通して温暖な気候と豊かな自然に恵まれたこの島は、「スペインと先住民族グアンチの文化、そ

してアフリカ・モロッコに近いことから、アフリカ、ヨーロッパ、そしてラテンアメリカなどの影響を受け、独特の文化を形成している。

そんなカナリア諸島発祥と言われる料理「ロパビエハ」。スペイン語で「古着」という意味のこの煮込み料理の名は、お肉をほろほろになるまで煮込むため、出来上がりがボロボロになった布のよう、ということに由来する。主な材料の牛肉や豚肉、ひよこ豆、玉ねぎ、パプリカ

などをいくつかのハーブやトマトと煮込んだ煮込み料理なのだが、残り物のスープに具材を足して作るリメイク料理なので、材料はその時々で変わる。ご飯はもちろん、ディップにしたり、パスタソースにしたり。食べ方はいかようにでも。週末の食卓やホームパーティでは必ず登場する定番中の定番料理。美しい海に囲まれ穏やかな時間が流れる島の週末、家族みんなの笑顔が並ぶ食卓の様子が見えてきそう。





[2015年、師走]

今年も クリスマスツリーが 海を渡ってやって来る

「函館冬の風物詩といえば、『は
こだてクリスマスファンタジー』



ハリファッ
クス市は、カ
ナダ連邦にあ
るノバ・スコ
シア州の州
都。イギリス
人が初めてカ
ナダに築いた
都市といわれ
函館市と同じ
ような歴史あ
る港町で、五

を思い浮かべる人も多いのでは
ないだろうか。観光スポットと
しても有名な金森赤レンガ倉庫
群前で毎年開催されている人気
のイベントだ。
そして、そんな函館の冬を飾
るイベントの主役は、海上に浮
かぶ巨大な「クリスマスツリー」
だろう。

このクリスマスツリーは、函
館市の姉妹都市であるカナダ・
ハリファックス市から1800
0 kmを越えて運ばれてきた「も
みの木」が使われている。

稜郭のような星形城塞が築かれて
いたこともあり、1982年に姉
妹都市提携が結ばれた。

ハリファックス市のもみの木
は「幸せを呼ぶ」ことで知られ、
1987年にイベント企画者で
あった当時の函館青年会議所理
事長が直接ハリファックス市長
にお願いしたことがきっかけと
なっており、翌1988年の開催時
から毎年寄贈されている。

まさに函館とハリファックス
の「友好のしるし」であり、幸
せの願いがこめられたクリスマス
スプレゼントなのである。

そんな「幸せを呼ぶもみの木」
のクリスマスツリー、イベント
期間中は毎日ツリーの点灯式と
ともに花火が打ち上げられ、き
らめくライトが元町のイルミ
ネーションと相まって、美しい
光景が見る者を魅了している。
また、この感動は、大切な人と
幸せと喜びを分かち合うクリス
マスとして心も彩られていくよ
うだ。

ボラットおすすめのこの一冊。

読む。

yomu

『駅弁女子』
なかだえり著 淡交社

来春、新幹線がやって来る！と
いうことで選んだ訳でもないが、
今回は鉄道ネタの本を。世の中
にはさまざまなマニアがいるがそ
中のジャンルに「駅弁」というの
がある。駅弁目当てに全国各地を
鉄道で旅する。食べた弁当のラベ
ル（正式にはレッテルというらし
い）を戦利品として大切にコレク
ションする、というのが主な活動
らしい。さてこの本、イラストレー
ターである著者が、女性目線で見
た駅弁の魅力と彼女のイラスト
レーションとともに紹介してい
る。「のんびり鉄道の旅もいいな」
と思わせてくれる一冊だ。



ご当地キャラなんていらない！の巻

「以 前から、折あるごとに言
っているの、知人の中
にはおまえのその話はもう聞き
飽きたと言うヤツもいそうだ
が、北海道新幹線開業がいよいよ
来春にせまったことで、『ずー
しーなんちゃら』の姿を目にし
ることが多くなり、我慢ができ
なくなったのでまた言わせても
らう。僕はゆるキャラとかご当
地キャラといった類いのものが
苦手だ。というか正直に言うと
大嫌いだ。あの手のものを見る
と具合が悪くなる。TVを見て
いてフナッシーだのクマモンだ
のが登場すると、チャンネルを
変えたくなるし、もしも自分の
中学生になる娘が、『かわいい』
と騒いで、僕が渡した小遣いで
『ずーしーなんちゃら』のグッズ
を買ってきたら、本気で『やめ
ろ』と説得するかも知れない。

ご当地キャラというのは、全
国各地にさまざまなものがある
らしい。「少ない予算で手っ取り

早く地元をアピールできるし、
他所もみんなやってくるから……」
ということなのだろう。地元の
特産品や観光名所などをモチー
フにした、驚くほどたくさん
数のご当地キャラが日本中に存
在する。なんと『(一社)日本ご当
地キャラクター協会』なるもの
まであるのだ。「全国に存在する
キャラクターをネットワーク化
し情報の共有・相互の連携を深
め、ローカルキャラクターを全
国に発信し、街を元気にする目
的」で本協会が設立されました」
(協会公式サイトより)というの
が、その活動の趣旨なのだとか。

たとえば、自治体主催する
何かの式典で、「さあ、いよいよ
テープカットです」とキレイな
おねえさんがアナウンスし、もっ
ともらしい顔をしたら来賓がハサ
ミを握って並ぶその隣で、わけ
のわからない着ぐるみが首を傾
げて愛嬌をふりまく。それをみ
んなが「めでたい、めでたい」と

笑顔で祝う。本当にそれでいい
のだろうか。もしも来賓の中に、
気難しいオジサンがいて「こん
な子供騙しのわけのわからんモ
ンはあっちへ行け！」と怒鳴っ
たなら、たぶんその場の空気は
凍りついて、たいへんなことにな
るのだからうけれど、僕がその
場にいたら、そのオジサンに惜
しめない拍手を贈るだろう。ど
うしてこれほどみんなキャラク
ターが好きなのか。そもそもご
当地キャラには、いまひとつバ
ランスが悪く、安っぽいデザイ
ンのものが多い(でもクマモンは
上手だね)。「ユルさ」を狙ってい
るものが、ただ下手糞なだけ……と
いうケースもあるように感じる
のは僕だけではないはずだ。

採用を決めた役所のオジサン
たちの中には「まあ、流行だから

オ、オレは
こんなもん許さん！



しょうがない」と理解のあるふ
りはしているものの、本心では
「こんな着ぐるみのとなりでニ
コニコなんかするのは気恥ずか
しい」という人もいるはずだ。い
やいてほしい。それが分別のあ
る正しいオヤジってものだ。『ず
ーしーなんちゃら』のデザイン
を決定する時、誰に最終決定権
があったのかは知らないが、少
なくとも年配の方たちの中には
「えー、ほんとにこんなでいい
のかよ……」と感じた人もいたは
ずだ。「でも、これ否定したら頭
固いつて思われるんだろうな」
などと余計な心配しないで、
もっと声高に「私はこんなの許
さん！」と一喝して欲しかった。
若者や子どもに迎合しすぎるの
はもう終わりにしよう。キャラ
クターなんて安易なものに逃げ
ず、そろそろ大人目線の品位あ
るアピール方法を、知恵を絞っ
て考えよう、と僕は言いたい。

最後に、これを読んで気分を
害した関係者のみなさん、えら
そうなことばっかり言っごめ
んなさい。

message board

各種イベントやボランティアスタッフ募集などを
ご案内するページです。

伝言板



観光ボランティアで函館のまちを案内してみませんか？

【随時】

●函館観光ボランティア会は、函館に観光に訪れてくださるお客様に、函館の素晴らしさを感じほかの都市とは異なった歴史的な魅力をお話しして、たくさんの思い出を作っていたらどうとご案内しているグループです。老人大学、小学校の地域学習のお手伝いもしています。入会後は会の中での研修もあり

り、楽しくボランティアをしています。

- 定期例会：月2回（6月～10月は月1回）
- 案内：函館市内全域と近郊
- ※興味のある方はお電話、またはFAXでご連絡ください。

函館観光ボランティア会

担当 / 佐藤 TEL/090-9528-0632 FAX/0138-46-5628

エコキャップ回収運動!地球に愛を!

【随時】

●ペットボトルのキャップを集めて大沼の森林後援にブナの木を植樹しよう! あなたの行動が地球の未来を創ります。小さなキャップでも混ざればゴミ、分ければ資源。BBAクラブではキャップを集めています。(毎月月末に電話連絡の上、ラッキーピエロ各店にお持ちください)12,000個分でブナの苗木1本分の資金になります。しっかり集めて毎年10月に大沼の森林公園

に植樹をして緑を豊かにしよう! ご家庭で、学校で、外出先で、職場で、みんなでエコカッコイイ活動を!

BBAクラブ(函館ボーイズ・ビー・アンビシャスクラブ)ラッキーピエログループ

担当 / 王 未来 函館市末広町 23-18 TEL/0138-42-6656 FAX/0138-42-4277 Email/lucky@lpl.jp http://luckypierrot.jp

ふるる函館 ボランティアスタッフ募集!

【随時】

●ふるる函館は函館山麓の谷地頭小学校跡地に、木造校舎の面影を残して建てられた宿泊研修施設です。イベントの際に手伝ってくれるボランティアスタッフを募集しています。一緒にイベントを盛り上げていきませんか! 1回限りの参加でもOKです。連絡お待ちしております。

- 1月 ふるるで過ごす冬体験 1泊2日
- 2月 「みんなで創る」イベントボランティア講座
- 3月 北海道新幹線開業記念 "みんな集まれ!ふるる祭"
- 日時: 詳細はお電話でお問合せください。
- 場所: 函館市青少年研修センター (ふるる函館)
- お問合せ・お申し込み: 電話、Eメールにてお願い致します。

函館市青少年研修センター ふるる函館

函館市谷地頭 5 番 14 号 TEL/0138-23-5961 FAX/0138-23-1315 E-Mail/ info@fururu.or.jp http://fururu.or.jp

プチカフェボランティア募集中!

【随時】

●函館YWCAでは、フェアトレード商品・環境に配慮した洗剤・安心安全な調味料などを取り扱う物販販売と、カフェスペース「プチカフェ」でのボランティアを常時募集しています。ボランティア未経験の方や、再就職へのステップなどお考えの方も、まずはご連絡下さい。

- ボランティア日:
火曜日・木曜日・
金曜日 (10:00~15:00)
- 場所:
函館YWCA プチカフェ



一般財団法人函館YWCA

函館市松陰町 1-12 TEL0138-51-5262 FAX0138-54-9548
E-mail:hakodate@ywca.or.jp

ふるる函館をぜひご利用ください。 FROM 函館市青少年研修センター (ふるる函館)

函館市青少年研修センター(ふるる函館)は、函館山山麓の谷地頭小学校跡地に、木造校舎の面影を残して建てられた宿泊研修施設です。愛称の「ふるる函館」は、人と人との触れ合いの気持ちや、触れ合うしぐさを表したものです。星が降るように、大勢の人が集うことを願ってつけられました。

近隣には、函館山の豊かな自然をはじめ、室町時代が起源とされる「函館八幡宮」、明治12年(1879年)に開園した歴史ある「函館公園」や、天気の良い日には北半島を望むこともできる「立待岬」があります。徒歩で5分程の所には、谷地頭温泉もあります。「ふるる函館」は、引率者(指導者)がいて、研修活動をしようとする5人以上のグループであれば、どなたでも、ご利用いただけます。クラブ活動や合宿、スポーツ大会などに参加する際の宿泊先として、また各種サークルや教室、PTA活動、クラスや子ども会、

町内会、自治会、敬老会などのレクリエーション、会社の研修会など、幅広いご利用が可能です。宿泊でも、日帰りでも、ご利用いただけます。皆様のご利用をお待ちいたしております。



函館市青少年研修センター 【ふるる函館】

〒040-0046 北海道函館市谷地頭町 5-14

TEL.0138-23-5961

FAX.0138-23-1315

(受付時間/8:45~17:30)

休館日/毎週月曜・祝日

年末年始(12月29日~1月3日)



●ご利用の詳細はホームページにてご覧いただけます。

fururu.or.jp

※詳しい情報をお知りになりたい方は、お電話にてお問合せください。

就職につながるパソコン基礎講座「若者UPプロジェクト」

FROM はこだて若者サポートステーション

はこだて若者サポートステーションでは、日本マイクロソフト社と協働し、若者の就職活動を応援するパソコン講座「若者UPプロジェクト」を開催。就職で必要とされるPCスキルを「できる!」ようになることを目指した内容となっています。



【日時】

Word基礎講座 2/1(月)

Excel基礎講座 2/12(金)、2/15(月)

※Excelは両日の参加をお願い致します。

Power Point基礎講座 2/19(金)

プログラミング入門 2/22(月)

それぞれ13:00~16:30

※その他、1/14(木)HIFにてWindows8の

操作方法やタイピング練習などを行う

「PC入門」も開催致します。

【会場】

函館市中央図書館 小研修室 (函館市五稜郭町26-1)

【申込み & お問合せ】

1. 対象/15~39歳までの若者で、現在求職中の方
(在学生は対象外となります。)

2. 受講料/無料
(テキスト無償配布)

3. 申込手順/受講にはサポステの利用者登録が必要となり、事前にお越し頂きます。

※詳しくは、はこだて若者サポートステーションへご連絡下さい。

はこだて若者サポートステーション

〒040-0054 北海道函館市元町 14-1 TEL. 0138-22-0325

www.hakodate-saposute.jp info@hakodate-saposute.jp

OPEN / 月~金曜 10:00~17:00 (祝祭日除く)

●サポステの活動はホームページにてご覧いただけます。

www.hakodate-saposute.jp

※詳しい情報をお知りになりたい方は、お電話にてお問合せください。

※はこだて若者サポートステーションは厚生労働省の委託を受け、(一財)北海道国際交流センターが運営しています。

「本」のこれからを考える

【2月6日(土)】

●ライブラリーリンク(函館市内の図書館連携組織)では、「本のこれからを考える」をテーマに講演会を開催します。北海道在住のライターと函館市中央図書館長を講師に迎え、現代における「本」の意味や可能性を探ります。講演会は図書館職員向けの研修会ですが、本に興味のある方ならどなたでも参加いただけます。「本」のこれからについて一緒に考えてみませんか？

- 日時:2月6日(土)14:00~17:00
- 定員152名
- 参加無料
- 申込不要
- 当日直接会場にお越しください。



公立はこだて未来大学情報ライブラリー

函館市亀田中野町116-2 TEL/0138-34-6360 FAX/0138-34-6362 E-mail/lib@fun.ac.jp http://library.fun.ac.jp/?page_id=241

HIF新春講演会

【2月7日(日)】

●日々、ニュースを賑わせているシリア・イラク難民の欧州への流入。彼らはなぜヨーロッパを目指すのか、そもそも難民とはどのような人々なのか、日本はシリア・イラク難民へどのような支援を行っているのか。外務省より講師をお招きし、ご講演いただきます。

- 「欧州へのシリア・イラク難民の流入と国際社会・日本の取り組み」
- 日時:2016年2月7日(日)(仮)
 - 時間:講演 10:30~12:00 懇親会 12:00~13:00
 - 会費:講演会/無料、懇親会/2000円(立食形式:会費は当日承ります)

一般財団法人 北海道国際交流センター(HIF)

担当/藤井 函館市元町14-1 TEL/0138-22-0770 FAX/0138-22-0660 E-mail/info@hif.or.jp www.hif.or.jp

女性のための法律相談

【2月16日(火)】

●法律上の悩みを抱える女性のために函館市内に勤務する女性弁護士が相談に応じます。

- 開催時間:午後2時~4時(1人30分)
- 対象:函館市民または市内に勤務する女性
- 相談料:無料
- 定員:4名(申し込み順)
- 申込受付開始:1月14日(木)午後1時より(定員に達するまで)
- 申込方法:電話、または直接窓口へ



函館市女性センター

函館市東川町11-12 TEL/0138-23-4188 www.hakodate-josen.com

2016年ホストファミリー募集

【2月(2泊3日)、6月~8月(2ヵ月)】

●HIFでは短期・長期のホストファミリーを募集しています。留学生は日本語を勉強しているので、外国語が話せなくても大丈夫！はじめてのご家庭にはスタッフが訪問し、疑問・質問にお答えします。興味のある方は、お気軽にお問合せください。

- 【第13回 国際交流冬のつどい】
- 期間:2016年2月12日(金)~14日(日)2泊3日
 - 参加留学生:日本の大学や日本語学校で勉強している学生(例年アジア圏の留学生の参加が多いです)
- 【第31回 日本語日本文化講座夏期セミナー】
- 期間:2016年6月10日(金)~8月6日(土) 約2ヵ月
 - 参加留学生:北米、アジア、ヨーロッパの大学で日本語を勉強している学生

一般財団法人 北海道国際交流センター(HIF)

担当/藤井 函館市元町14-1 TEL/0138-22-0770 FAX/0138-22-0660 E-mail/info@hif.or.jp www.hif.or.jp

ボランティアイベントの告知やスタッフ募集など、ボラットのメッセージボード・伝言板へ掲載します。

情報掲載は無料です。郵送・FAX、またはボラットホームページから掲載依頼記事をご投稿ください。記入用紙はボラット事務局にあります。

伝言板

年4回発行。掲載は無料です。

※スペースに限りがありますので、掲載できない場合もあります。ご了承ください。



【郵送】

〒040-0054
函館市元町14-1
HIF ボラット事務局



【FAX】

0138-22-0660



【ホームページ】

http://www.hif.or.jp/volut/
指示に従って入力

m e s s a g e b o a r d

いのちの花part 2 チョコ募金2016

【2015年12月~2016年3月】

●「チョコ募金」は、2006年から毎年おこなっている冬季限定の募金キャンペーンです。いただいた募金はイラクの小児がん医療支援、シリア難民/イラク国内避難民支援、福島の子供たちを放射能から守る活動に使われます。500円募金してくださった方に六花亭のチョコレートと1缶プレゼント。パッケージはイラクのがんの子供たちが描いた絵です。今年のテーマは

コワーキングカフェ小春日和

担当: 宮川 函館市八幡町 18-18 TEL & FAX/0138-83-7721 E-mail/info@8share.info http://8share.jp

「いのちの花Part2 Chocolate for Peace」、ぜひバレンタインにおひとついかがですか。

- 日時:2015年12月~2016年3月末まで
- 受付:特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク
TEL/03-3209-0051 FAX/03-3209-0052
http://jim-net.org
または、コワーキングカフェ小春日和



元町FooD祭り

【12月20日(土)、1月9日(土)】

●坂の上でも歩いて暮らせて、そしていろんなところから人が集まり楽しめる坂道を生かした商店街を作ろう！というコンセプトのもとでイベントなどを企画。11月からテーマにあわせて食料品祭りを開催しています。

元町商店街準備室(事務局) まるたま小屋

担当/北見伸子 函館市元町2-3
TEL/0138-76-3749 FAX/0138-76-3749 E-mail/marutama@ncv.jp www.facebook.com/marutamaopro/

【スープとパンとクリスマスのお菓子編】

- 日時:12月20日(土)11時から売り切れまで
- 内容:Un plat de Dolly・くあふり・スモック・まるたま小屋のスープと、ちいさなしあわせパン・ile baglesのパン、その他雑貨や食料品販売。atelier fiore 北山智子によるラッピングサービス(有料)も。
- 【フランス編】
- 日時:1月9日(土)時間未定
- フランスからの留学生らとガレットデロワの体験(予約制)と、フランスにまつわる食料品の販売などを予定。ガレットデロワの参加については予約制となりますので、興味のある方はお問い合わせください。
- 講師: <手話> 笹谷光一さん(函館聴覚障がい者協会) <読話> 門真弘義先生(函館聾学校)

カレンダーを提供してください！

【12月21日(月)~25日(金)、1月4日(月)~7日(木)】

●かいせい協力会では様々な協力・支援事業を行っています。その活動のひとつとして、地域の皆様から2016年のカレンダーや手帳、日めくり等、提供して頂いたものを低価格にて販売し、収益は社会福祉法人かいせいの運営に活用されます。今年もご協力のほどよろしくお願いいたします。

- 受付:2015年12月21日(月)~25日(金):2016年1月4日(月)~7日(木)
- 受付場所:第3回海星(北浜5-23) TEL・FAX/0138-41-4400
(ご提供くださる方は、上記まで届けて下さると大変助かります。)
- バザール開催日:2016年1月9日(土)10:00~16:00、11日(日)10:00~15:00
- 開催場所:函館市総合福祉センター あいよる21(若松町33-6)

かいせい協力会事務局

担当/金丸 函館市追分町5-23-2
TEL/0138-40-8989 FAX/0138-40-7090 E-mail/info@kaisei-hakodate.jp

ロシア語市民講座(後期)受講生募集

【1月12日(火)~3月14日(月)】

●ロシア人の先生にロシア語を習ってませんか？日本人向けロシア語教育のノウハウを持つベテランの講師陣がわかりやすく楽しくお教えします。夜間開講なので、お仕事をされている方にもオススメです。今回は、次の2つのコースの受講生を募集します。中級(簡単なテキストを読み、翻訳・通訳ができる方)、上級(多様な会話ができて、翻訳・通訳ができる方)。

ロシア極東連邦総合大学函館校

担当/イリイン・セルゲイ 函館市元町14-1
TEL/0138-26-6523 FAX/0138-26-0342 E-mail/info@fesu.ac.jp www.fesu.ac.jp/

- 日時:2016年1月12日~3月14日
毎週月曜日18:30~20:00 ※1月12日のみ火曜開講
- 場所:ロシア極東連邦総合大学函館校(函館市元町14-1)
- 申込締切:1月7日(木)まで
- 定員:各コース10名、ただし3名未満は開講しません。
- 受講料:2万円。中・高生半額、大学生2割引き。
- 申込方法:所定用紙を本校に請求のうえ、FAX、郵送、持参、e-mailのいずれかの方法で申し込んでください。
※用紙は本校ホームページからダウンロードできます。そのほか、詳しいことは事務局までお問い合わせください。

ジョン・ルーカス ゴスペル・ワークショップ参加者大募集! 【1月21日(木)、3月17日(木)、6月17日(金)】

●24時間テレビのど自慢THEワールド出演の「J's 王子」ジョン・ルーカスと一緒に歌おう！

- 日時:1月21日(木)、3月17日(木)、6月17日(金)19:00~20:00
(3回のワークショップのうち、1回のみの参加も大丈夫です。)
- ワークショップ参加費:1回1000円
ワークショップ参加者は2016年7月17日(日)午後からの函館市芸術ホールで行われるジョン・ルーカス復興支援チャリティコンサートに「ジョン・ルーカス・ワークショップ・クワイア」として参加することができます。(コンサート参加費、別途3000円)



函館きぼうゴスペルクワイア(HKG)

函館市五稜郭町7-22 TEL/090-2818-6698 E-mail/jl.hakodate@gmail.com

OPIってご存知ですか？



oral proficiency interview

「ACTFL(アクトフル)」は、
The American Council on the Teaching of Foreign Languages (全米外国語教育協会)の略称で、
外国語教育に携わっている人々約1万人が会員になっている学会です。

OPIとは、そのACTFLが開発した外国語の口頭運用能力を測定するためのインタビューテストのこと。
1993年、このOPIの技術の維持・向上、普及、そして会員相互の親睦を目的として、
「日本語OPI研究会」が本格的にスタートしました。

「OPI」とは、"oral proficiency interview (オーラル・プロフィシェンシー・インタビュー)"の頭文字です。

日本語OPI研究会

「OPI」そして「日本語OPI研究会」に関する詳しい内容はホームページをご覧ください。

<http://www.opi.jp>



photograph by Saeru

S T A F F

●発行人
池田 誠

●編集人
中村ひでのり

●編集スタッフ
伊藤 尚
庄司 証
松倉亜希子

●連載依頼(敬称略)
庄司 証
ワタナベヒロシ
米田哲平
さとうあやこ

●取材協力(敬称略)
馬麗
バゲンダ・フロレンス
林 佐和子
石橋まなみ
柴田晃宏
大野誠子
山田圭介・あゆみ
毛利悦子
小葉松洋子
函館市子ども未来部次世代育成課
アルマ・スイフト

●撮影
saeru
伊藤 尚

●イラストレーション
かわむらてるあき(表紙)
H.Nakamura(本文)

●サポーター会員
森田麻美子 稲泉省三
鈴木詔次 松本百合
川上 納

次号[ボラット]は
2016年3月20日、発行です。

2015年冬号(年4回発行)
2015年12月20日発行
(一財)北海道国際交流センター(HIF)
【ボラット編集事務局】
040-0054 函館市元町14-1
TEL. 0138-22-0770 FAX. 0138-22-0660
E-mail volut@hif.or.jp http://www.hif.or.jp/volut/

禁・無断転載

●[ボラット] 設置場所

【金店配布】ラッキービエロ/ハセガワストア/郵便局(一部)/生活協同組合コープさっぽろ/みちのく銀行/函館信用金庫/児童館/町会会館(一部)/美容室アイズ

【本町・五稜郭付近エリア】函館市芸術ホール/函館市中央図書館/総合保健センター/北海道新聞社(道新文化センター)/函館YWCA/レストランバスク/ワークスコープ/茜/シネマアイリス/函館市青年センター/北海道教育大学函館校/Colz/Bees.Bee/ネハナ/函館短期大学付設調理製菓専門学校/クラブカットE'/おおわき整形外科/アロマセラピー香音/しげちゃんずし/喫茶Canvas

【函館駅前付近エリア】函館市役所/工房虹と夢/Pizzeria AMORINO/NHK/千歳図書室/サンリフレ函館/赤帽子屋/函館駅イカすホール/函館駅前バス案内・待合所/美容室POP天国レッドリリー/函館市総合福祉センター/SAKE BOUTIQUE越前屋

【美原・本通・中道・桔梗付近エリア】美原図書室/亀田支所/渡島総合振興局/EIKODO美原店/折谷組/水花月茶寮/ドゥ・アンジュ/花の湯/桔梗配本所(桔梗母と子の家)/LADIGUE/珈琲物語/Pizza and BIANCHI/チッチョバステッチョ/Cafe en/公立はこだて未来大学/お総菜大地/文教堂桔梗店/三省堂/タイヤ館函館本店/亀田公民館/わっとな/ファイヤービット/おしま地域療育センター

【西部地区エリア】北海道国際交流センター(HIF)/Pain屋/ふるる函館/MOSSTREES/金森赤レンガ倉庫/FMいるか/バル・レストラン・ラ・コンチャ/甘味茶房花かんろ/Old Miss 菊/ギャラリー村岡/次郎うどん/カフェやまじょう/ロシア極東連邦総合大学函館校/Cafeteria Morie//ハレジョオン・ヒメジョオン/函館市女性センター/はこだて工芸舎/函館市公民館/函館市地域交流まちづくりセンター/ROMANTICO ROMANTICA /Select Coffee Shop Peacepiece/蕎麦だいにんぐCOCOLO/和雑貨いろは/カフェ三日月/太刀川カフェ/Cafe & Deli MARUSEN/函館圏フリースクールすまいる/パザール・バザール

【五稜郭駅・昭和エリア】Beauty Concierge AOKI/こじまキッズクリニック/港図書室/タマツ電機/北海道大学水産学部/函館市亀田青少年会館

【山の手・湯の川・旭岡付近エリア】旭岡図書室/銭亀沢支所/函館市民会館/湯川支所/湯川図書室/函館大学/函館短期大学/函館工業高等専門学校/山の手温泉/花園温泉

【北斗市エリア】北斗市役所/かなで〜る/LEAVES/しんわの湯/北斗市スポーツセンター/北斗市公民館/久根別住民センター く〜みん/七重浜住民センター れいんぼー/Coing

【七飯・大沼エリア】加藤栄好堂/こなひき小屋/ななえ天然温泉ゆうひの館/七飯町文化センター/大中山コモン/ドゥ・エ・タンデュル洋菓子店・マルス店/レストランビノ/宮崎鯉屋/南北海道大沼婦人会館/カントリーキッチンWALD/大沼国際交流プラザ/ネイバル森/Studio Lumier/七飯町役場/大沼国際セミナーハウス/アルボル



いろんなこと、募集しています!

●ボラットはおおぜいの方々のボランティアによって支えられています。安定した運営のため、広告の掲載、または協賛して下さる方(サポーター会員)を募集しております。年会費は一口、団体/¥5000、個人/¥2000です。みなさんのご理解とご協力、よろしく願います。なお、広告の掲載料につきましては事務局までお問合せください。

●ボラット編集部では読者のみなさまからのご意見・ご感想、さまざまな情報をお待ちしております。お気軽にお寄せください。ご協力よろしくお願いします。

【ボラット編集事務局】
TEL. 0138-22-0770 FAX. 0138-22-0660
E-mail volut@hif.or.jp http://www.hif.or.jp/volut/



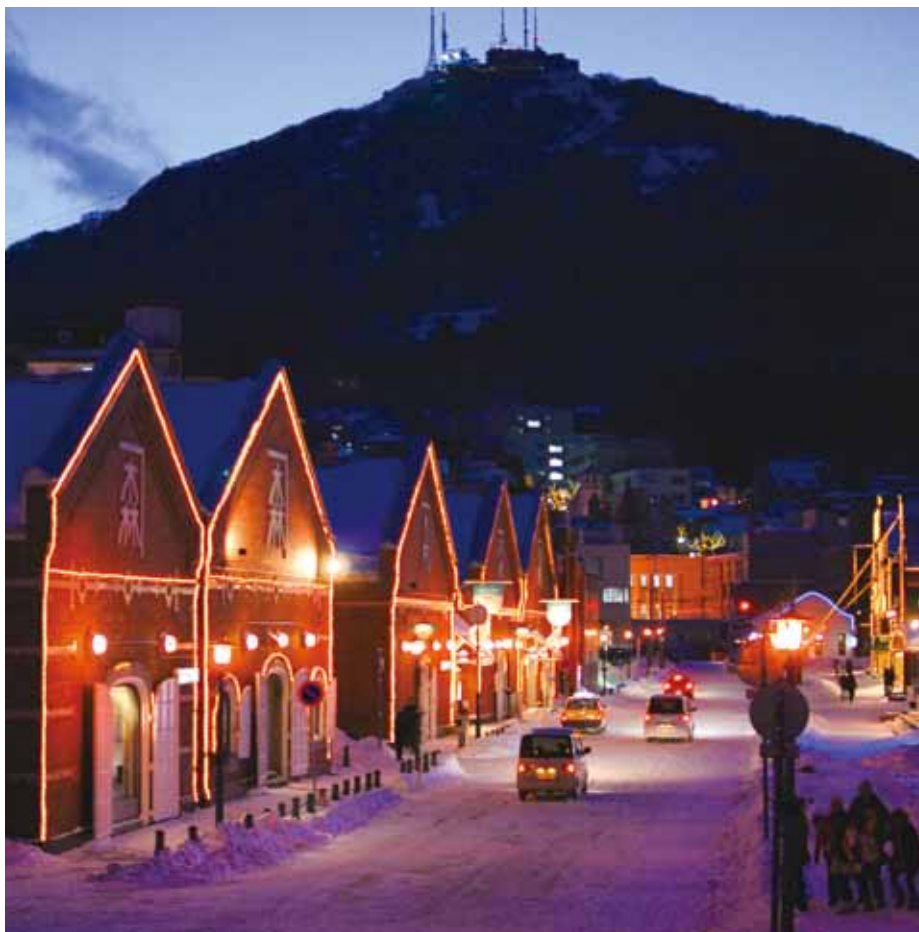
発行／(一財)北海道国際交流センター (HIF)

040-0054 函館市町14-1

E-mail volut@hif.or.jp

http://www.hif.or.jp/volut/

TEL. 0138-22-0770 FAX. 0138-22-0660



人の数だけ思い出のある場所

金森赤レンガ倉庫

異国情緒あふれる函館ベイエリアにある赤レンガ倉庫群。

ショップやカフェ、レストランの他に広場や多目的ホール、運河などを満喫できるひとつの「街」があります。

美味しいお食事とショッピングが一度に楽しめる金森赤レンガ倉庫にぜひお越し下さい。



ゆったりとした時間が流れる金森赤レンガ倉庫で心温まる時間を...

金森赤レンガ倉庫
KANEMORI RED BRICK WAREHOUSE

函館市末広町14番12号 TEL.(0138)27-5530
駐車場あり 1,000円以上お買上げの方 2時間無料

金森赤レンガ倉庫

検索